

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）  
分担研究報告書

進行性骨化性線維異形成症 (FOP) における口腔ケアに関する研究

研究分担者 須佐美 隆史

東京大学医学部附属病院 顎口腔外科・歯科矯正歯科 准教授

**研究要旨** 進行性骨化性線維異形成症 (FOP) 患者は開口障害をしばしば呈し、口腔ケアが困難である。また、う蝕や歯周病の治療が困難で、症状が進行すると顎下部のフレアアップを起こす危険性がある。本研究では、FOP 患者の口腔内を清潔に保つための方法について、FOP 患者の口腔衛生指導経過をもとに検討し、現時点で最善と思われる方法とその注意点をハンドブックにまとめた。

**A. 研究目的**

進行性骨化性線維異形成症 (FOP) 患者は開口障害をしばしば呈し、口腔ケアが困難である。また、う蝕や歯周病の治療が困難で、症状が進行すると顎下部のフレアアップを起こす危険性がある。本研究では、FOP 患者の口腔内を清潔に保つための方法を症例を通じ検討し、得られた知見とこれまでの報告をもとに、現時点で最善と思われる方法とその注意点をハンドブックにまとめた。

**B. 研究方法**

開口障害を示す FOP 患者 2 名に対し、口腔衛生指導を行い、歯ブラシと補助的清掃器具の有用性を検討し、得られた所見をもとにハンドブックを作成した。ハンドブックには個人情報掲載していない。

**C. 研究結果**

通常の歯ブラシでは口腔ケアが十分でなく、小さく薄い歯ブラシ、柄を曲げることのできる歯ブラシが必要であった。音波ブラシは四肢にも症状のある患者に有用で、歯間ブラシは歯ブラシが届きにくいところの清掃に必要であった。開口量が全くない

場合は、歯列口蓋側の清掃は困難であった。得られた知見をもとに「口腔ケアハンドブック」を研究班のホームページに掲載した。

**D. 考察**

開口障害を示す FOP 患者の口腔ケアには特別な歯ブラシを推奨する必要があり、清掃器具の紹介、清掃方法の指導が重要と思われた。その一助としてウェブサイトからダウンロードできる「口腔ケアハンドブック」は疾患防止に有用と思われた。

**E. 結論**

FOP 患者の口腔ケア方法を検討し、「口腔ケアハンドブック」を作成した。

**F. 健康危険情報**

特になし。

**G. 研究発表**

1. 電子書籍

田村和美, 須佐美隆史, 森良之: FOP 口腔ケアハンドブック. 進行性骨化性線維異形成症 (FOP) に関する調査研究班ホームページ (<http://fop.umin.jp/>)。